

外壁タイル面への透明塗膜防水

セブン SS
塗替用 SS-T工法
(RC 造)

施工要領書

2025 年 4 月改訂版



Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. 塗替用 SS-T工法の工程(RC 造)	2
2. 適応下地	2
3. 施工条件	2
4. 施工上の注意.....	3
5. 使用材料一覧.....	4

1. 塗替用 SS-T工法の工程(RC 造)

工 程	使用材料	希 釈 (重量%)	所要量 (kg/m ²)	工程時間 (H)	施 工 方 法	
1	下塗り (1~2回)	セブンS塗替用 シーラー	無希釈	0.08	3~24	中毛ウールローラー 刷毛
2	中塗り(1)	セブン SS	水道水 (0~5)	0.4	4~168	細目砂骨ローラー 刷毛
3	中塗り(2)			0.2	16~168	中毛ウールローラー 刷毛
4	上塗り (艶有/半艶)	セブンストップ M#30	無希釈	0.12	2~8	中毛ウールローラー 刷毛
5	上塗り (艶有/半艶)			0.12	24~最終 養生	

※ シーラー・トップ(溶剤系の塗料)の追いかけて塗りを行う時は当日中に行ってください。(高温だと当日でもリフティングの恐れがあるので指触確認し乾燥していればすぐに追いかけて塗ってください。)

※ 既存塗膜の下地への付着性能を上げるものではありません。

2. 適応下地

タイル・ガラス・コンクリート(本施工要領は既存セブン S 塗膜への内容です。)

他下地についてはご相談ください。

3. 施工条件

- ① 外気温が5℃以下 35℃以上、湿度は80%Rh以上の環境での施工は避けてください。
(外気温だけではなく躯体温度も含まれます。)
- ② 施工時及び材料の乾燥硬化の過程で降雨が予想される場合は施工を避けてください。
- ③ 施工前後で結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避けてください。
- ④ 強風の時は、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたしますので、十分な風養生対策を行うか施工を避けてください。
- ⑤ タイルが接地面(GL)から張られている場合、毛細管現象により地面からの水分の影響を避けるため接地面から 10 cm程度は施工を避けてください。
- ⑥ 全面を施工しない場合、取合い部から水分の影響を受けないようにシーリング目地で見切り施工を行ってください。
- ⑦ 花壇や擁壁など裏面からの水分の供給が予想される部分への施工は避けてください。
- ⑧ 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管してください。
- ⑨ 材料については SDS を確認してください。

※ 深目地などの特殊な下地の場合はご相談ください。

4. 施工上の注意

「セブン SS」はアクリルシリコン樹脂をベースにした透明塗膜防水材料で 10 年程の樹脂性能を有しています。透明仕上げの為、施工前の下地の洗浄、塗膜内への異物の混入、泡を巻き込んだままでの乾燥硬化により意匠性を損なってしまう恐れがありますので施工要領書を確認し注意して施工してください。既存塗膜の付着力が低下している場合、脆弱下地への塗付けになるため脆弱塗膜は必ず除去してください。

(1) 下地処理

- ① 下地の欠損やタイルの浮き(タイル下地も含む)、既存脆弱塗膜などの下地処理を適切に行ってください。
- ② シーリング材用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所が経時後不具合を起す事があるので、表面に残らぬよう処理してください。
- ③ 施工前の意匠を残す工法ですので下地洗浄やエフロレッセンスの除去などをしっかり行い残留物が残らないよう高圧水洗浄してください。
- ④ 水洗後のタイル面は十分乾燥させてください。

(2) 下塗り

- ① セブン S 塗替用シーラーは 2 液型塗材になりますので正しい比率で混合してください。
- ② シーラーが目地モルタル部分に達する箇所は濡れ色で濃くなります。既存塗膜が健全であり目地モルタル部分まで下塗り材が到達しない箇所は既存の意匠のまま造膜して仕上がりますのでテスト施工を行うか事前説明をお勧めします。
- ③ セブン S 塗替用シーラーを 2 回塗りする際は当日中に行ってください。

(3) 中塗り

- ① 指触確認し、下塗りの乾燥後(3時間以上)中塗りを始めてください。
- ② セブン SS を 0~5%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう攪拌棒などで静かに「の」の字を書くように攪拌してください。(通常の高速ハンドミキサーは、泡混入のため使用できません。)
- ③ 細目砂骨ローラーにセブン SS を十分に含ませ、気泡が混入しないように、配り塗り、仕上げ塗りし均一に仕上げてください。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所では気泡混入による白濁の可能性が高くなります。施工時の下地の温度や塗り重ねの時間差に気を付けて施工してください。

(4) 上塗り

- ① 中塗りセブン SS 塗装翌日以降、乾燥硬化を確認後、同一箇所は当日中に 2 回塗りしてください。
- ② セブンストップM#30は 2 液型塗材になりますので正しい比率で混合してください。(小分けする場合、予め十分に攪拌してから計量し小分けしてください。) 上記の理由から、少量使用の場合は、3kg ㇿをご利用ください。
- ③ 上塗材の半艶は、艶消し材が沈降していることがありますので、混合前にハンドミキサーで十分攪拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合してください。
- ④ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生してください。
- ⑤ セブン S トップ M#30塗り付ける際、気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、「セブン S トップ M#30専用シンナー」で 0~5%程度希釈、均一に混合し塗装してください。
- ⑥ 透明仕上げの為、塗り重ね回数による光沢の差異が生じてまいります。目地部分で見切りながら塗るなどして塗継ぎの際、ラップによる光沢に違いの出ないように施工を行ってください。

5. 使用材料一覧

工程	製品名	容量	荷姿	備考
下塗り	2液型アクリルシリコン樹脂(弱溶剤) セブンS塗替用シーラー	12kg ㇿ	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
		3kg ㇿ	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.25
下塗り	アクリルシリコン樹脂 セブン SS	14kg	石油缶	水性1液
		4kg	ポリ丸缶	
中塗り	2液型アクリルシリコン樹脂(弱溶剤) セブンストップM#30 艶有・半艶	12kg ㇿ	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
		3kg ㇿ	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.25
上塗り	セブンストップM#30 シンナー	16L 4L	石油缶	希釈用シンナー



東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F
 TEL 03(6809)2597 FAX 03(6809)2598
<https://www.seven-chemical.co.jp>